



| 目次 | |
|--------------|-----|
| ●巻頭言 | 1 |
| ●全公教佐賀大会参加報告 | 2 |
| ●特集 | 3～4 |
| ●郡市教頭会ネットワーク | 5 |
| ●新入会員の声 | 6 |
| ●随想 | 7 |



困難に立ち向かう

新潟県小中学校教頭会

副会長 **有坂 一郎**

(上越市立大町小学校)

8月30日、新潟県は新型コロナウイルス感染症対策として、県内全域を対象とした「特別警報」を発令しました。これに伴い、市町村教育委員会からは感染症対策の「確認」や「徹底」についての通知が発出されました。学校では、日々の教育活動の見直しや、感染症対策と私たち教職員の危機意識の強化を急遽、進めなくてはなりませんでした。

夏休み明け、新たなスタートを切った時期です。小中学校とも、これから予定されている学校行事は数多くあり、とりわけ中学校では部活動の休止が求められ、大会の在り方にまで議論が及びました。東京オリンピック・パラリンピックが与えてくれた感動や勇気、感謝と前向きな気持ちが一気に奪われたように思えました。

あれから1か月が経ち、現在は県の「特別警報」は解除され、また、4月に発出された「緊急事態宣言」も全都道府県で解除されました。穏やかな日常の兆しが見え始めているものの、今後も厳しい状況が続いていくことは間違いのないことです。

私たちは、引き続き「命と健康を守ること」を最優先しながら、日々の教育活動に粛々と取り組んでいかななくてはなりません。目の前を見ると、子どもたちの笑い声があり、仲間と共に汗をかく姿があります。伸びたい伸びたいと子どもたちの内なる声が聴こえてきます。今まで当たり前と思っていたこういった光景が、今はとても愛おしく眩しく見えます。

さて、10月29日(金)には各地区において、ブ

ロック別研究大会が行われます。思い返しますと、令和元年度に新潟市で開催された関ブロ教頭会研究大会では、関東甲信越の仲間を迎え、延べ1,500人の参加者が集い、確かな成果を上げました。教頭会HPに当時の様子が掲載されていますが、活気あふれる素晴らしい大会となりました。

令和2年度は、ご承知の通り、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、苦渋の決断でブロック別研究大会を中止しました。各郡市教頭会においても、一堂に会する機会はほぼありませんでした。

そして今年度、令和3年度は開催方法を工夫して、ブロック別研究大会を行います。オンラインと対面式を織り交ぜた、いわゆる「ハイブリット形式」を活用して、それぞれの地区の独自性を発揮しながらの開催となります。教頭会HPからダウンロードした各ブロックの要項を見ますと、基本的なつくりは一緒ではあるものの、構成の仕方や表紙等に各地区の独自性が表れています。主管教頭会の皆様、並びに提言者をはじめとする関係の皆様のごこれまでのご苦勞に心から感謝申し上げます。

本会報194号で、小島会長は「令和3年はトライ&エラーの1年でもある」と述べました。正に今年度の大会運営は、前例のない新たな挑戦であり、県小中教頭会としての新たな一歩となるものです。この大会を通して、私たち教頭の役割と責務の重さを再確認するとともに、すでに「第6波」の話題が開始してはおりますが、いかなる困難にも立ち向かう決意を新たにしたいと思います。

全公教佐賀大会参加報告



全国公立学校教頭会 研究大会に参加して

魚沼市立須原小学校

小松 健二

今年度の全公教佐賀大会は、新型コロナウイルスの感染防止から、オンライン大会となりました。全国統一研究主題「未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」を踏まえ、サブテーマ「志を高くもち豊かな心と未来を切り拓く力を育む学校づくりの推進」をもとに、全国の副校長、教頭先生方と協議・情報交換が行われました。

1日目の記念講演では、佐賀県出身の元広島東洋カープ監督緒方孝市氏から「組織を活かすマネジメント」と題してご講演いただきました。緒方氏からは自らの選手・監督時代の経験をもとに、いかにして選手やコーチを育てるかをご教授いただきました。講演を通して、一人一人の個性を大切にしながら、適切な助言・アドバイスが必要であることを再認識しました。

2日目の分科会では、特別Ⅱ分科会に参加し、「情報機器を活用した業務改善」と「組織を活性化する人事評価」について討議が行われました。

「情報機器を活用した業務改善」については、ギガスクール構想の前倒しにより、小中学校に情報機器の整備が進んだものの、本格的な活用にはいたっていない現状が報告されました。管理職として、教員が主体的に学ぶ組織を創り上げるとともに、情報機器を活用した業務改善を進めることが重要であることが確認されました。

「人事評価」については、人が人を評価するため、評価者と被評価者との納得と信頼が不可欠であり、それが一番難しいという報告が行われました。納得と信頼を得るには、面談や声掛け等を行いながら、教職員一人一人を理解するとともに、適切に指導・助言を行うことが重要であることが確認されました。

全国の先生方と話をすることができたことで、日頃の業務を見直すことにつながり、有意義な研究大会でした。



全公教 佐賀大会で 学んだこと

佐渡市立新穂中学校

荻野 伸也

8月3日、4日にオンラインで参加した全公教佐賀大会では、全国の教頭先生たちと繋がり、大いに学ばせてもらった。

1日目の記念講演では、緒方孝市氏が就任1年目の失敗から学んだこととして語られた「踏襲は成果を生まない。精神論ではなく、目指す具体の姿を伝えることが大切」という言葉が、我々教頭の立場にも当てはまる考え方として、印象に残った。また、午後の部のシンポジウムでは、著名な4名の方から「高い志 豊かな心 切り拓く未来」をテーマに語っていただいた。その中でも、「教師の一言で人生が決まることもある」という言葉は、全職員に意識させるべき教訓であると思った。また、「目標をもたせ、そこから逆算して行動させる指導をしてほしい」という言葉も印象に残った。児童・生徒だけでなく、指導的立場にある教頭は、職員に対しても意識すべきであると思った。

2日目は分科会に分かれ、多くの教頭先生方と意見交換ができた。参加した「教職の専門性」に関する分科会では、二つのテーマで協議した。一つは、職員の指導力・授業力を高めるための研修をどのように充実させるか意見交換をした。研修時間の捻出のため、学校のカリキュラムを再考した事例や、一人一人の職員と教頭が入念に打合せをし、仕組み作りを行った事例が紹介され、勉強になった。また、協働体制の構築のための教頭の役割を題材にして、各種評価を活かす取組や、後進の人材育成のため、年配層と若年層のペアリングでレベルアップを目指す取組、気軽に悩みを言えるホワイトボードの設置など、早速当校でも取り入れたい事例を聞かせていただいた。

教頭は、各校一人である。自校の舵取りをするためにも多くの教頭先生たちと繋がり、教えてもらう機会は大変重要である。その意味でも、多くの意見をうかがえたこの2日間は、私にとって大変有意義であった。是非、多くの場で還元していきたい。

特集

GIGAスクール構想に向けた取組の現状



ICTを生かしたこれからの
学校づくりを推進するために

大野 隆 司
(妙高市立妙高高原北小学校)

妙高市は、文部科学省のGIGAスクール構想を受け、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、令和2年8月よりGIGAスクール構想推進委員会を発足し準備をしてきた。令和3年度の1人1台端末の導入に向けて、「妙高市学習用タブレットのきまり」を作成した。4月に児童生徒・保護者がそのきまりに同意した上で使用を開始した。また、妙高市教育研究会情報教育部と連携し、ICTを生かした学校づくりが進められるよう研修計画を立て取り組んできた。以下、研修の内容である。

| 月 | 内容 |
|---|---|
| 4 | ロイロノート・スクール研修会 各校で情報教育部員からの伝達講習 |
| 6 | 第1回事例報告会 (ロイロノートやシンキングツールを 活用した小中学校2校の授業事例) |
| 7 | 授業公開研修 (小学校3年社会科「店で働く人と仕事」) |
| 8 | 第2回事例報告会 (アプリの紹介、情報交換) |

7月の授業公開研修では、上越教育大学大学院准教授 榊原 範久 様をお招きし、授業でICTを活用するメリット・デメリットや主体的・対話的で深い学びの授業を成立させるための有効なアプリ等の活用方法についてご指導をいただいた。部員からも、タブレットを使う意義や課題等が出され、活発な議論となった。

現在、これらの研修を受け、各校の情報教育部員が推進役となり、伝達講習や情報提供を行っている。タブレット等のICTを生かした学校づくりの充実度を高めるためには、この推進役の力が大きい。また、個々の教職員の実態に応じた使い方研修(入門編・活用編)を実施する必要があると考える。

今後の課題は、児童生徒が段階に応じて習得するスキルを整理し、カリキュラム表を作成し、小中連携を図っていくことである。



Google Workspace for Educationの活用を
学校独自から市全体への発信へ

土田 貴 宏
(三条市立大島中学校)

大島中学校では、生徒一人一台端末導入時より、Google認定教育者資格取得教員を中心として、端末を使った授業計画を各教科で検討するとともに、端末使用時のマナー面やルールづくりを生徒と共に取り組んできた。

昨年度より試行してきた、Googleフォームを利用して保護者による生徒の出欠入力と生徒による健康観察入力を開始した。これには、朝の検温結果や体調状態を選択入力することの他にコメントの入力もできるため、生徒の健康状況の把握に有効である。この導入により、毎日の健康観察の集計が容易になっただけでなく、朝の保護者からの電話による欠席遅刻連絡が減少し、教職員の負担軽減につながっている。市教育委員会もこの取組を注視しており、各学校にこの連絡方法も選択肢のひとつとして紹介された。

また、「タブレット端末を利用した校外活動モデル事業」の実証実践校の指定を受けた。体育祭を無観客開催したこともあり、9月下旬の連休を利用して、持ち帰りの実証実験を行った。提示する内容は、セキュリティー面等を配慮しての体育祭のダイジェスト動画配信、オフラインで行える週末課題の提示、オンラインで行う任意の課題である。今回の実証実験で、家庭での接続環境がどうであるか、生徒の家庭学習にどれくらい有効であるかを検証したい。

詳細な検証はこれからであるが、各家庭のWiFi環境が万全であるわけではないこと、環境が公平ではないため成績につながる課題をオンライン配信できないこと、著作権問題を解決することが容易ではないこと等が挙げられる。これらの点を市教育委員会と協議しながら実証実験を重ね、三条市全体のスタンダードを構築できるように取組にしていきたい。



特集

GIGAスクール構想に向けた取組の現状

職員みんなで
アップデート鷲尾 健仁
(新潟市立青山小学校)

1. 教師も学びを止めない

(1) 校内研修の中核に据える

研修主題を「深い学びの実現に向けた授業の創造～ICTによる思考の可視化とその活用～」とし、タブレット端末を効果的に活用することで深い学びの実現を目指している。パイロット授業を皮切りに、全職員が公開授業を通して研鑽していく。

(2) 情報交換の場を必然化

校務支援ソフト掲示板の活用により、職員終会の時間が短縮した。産出された時間を「GIGAタイム」とし、GIGA部が運営している。担任も級外も管理職も関係ない。実際に端末を開き、青山にとってマストなスキルを身に付ける時間として活用している。

(3) コーヒーブレイクで授業改善

研究推進部とGIGA部との共催で不定期に開催。授業での活用例(構想)を紹介し合い、全職員で共有する。研修主題を受け、思考の可視化により交流を生むことを意識した活用を目指す。

2. 教師の学びを止めさせないために

実は、上記の取組は春からトップスピードで行うべく、昨年度末に決定していたこと。今年度着任した私は、それらが滞りなく執行できるよう支援しているに過ぎない。

私がGIGAスクール構想を推進していく上で大切にしているのは、以下のシンプルな基準である。

| |
|----------------------|
| 授業や日常での利活用に直接つながるか否か |
|----------------------|

Zoomの入室テストやWi-Fi調査・集計等、直接子どもたちの学びに関係がない事項は、極力担任から切り離し、管理職と級外で行うようにしている。

また、コロナ禍において、休校や閉鎖時のオンライン対応の程度、諸活動の可否等、「学校裁量・判断」を求められる事項があまりにも多い。担当はじめ職員に、「どうする?どこまでできそう?」と尋ねるところからスタートするのではなく、「こうしたいと思うがどうだろうか?」と、ある程度方向性が見える提案をするよう心掛けている。担任には、授業や日常での利活用に集中できる環境を整備したい。

当校におけるICT設備・
活用に関わる取組状況大滝 英俊
(村上市立山辺里小学校)

村上市も昨年度末にGIGAスクール構想に向けて児童一人一台の端末(クロームブック)が、市教育委員会から配備された。それに合わせて各教室等に高速ネットワーク(WiFi)が整備された。

この状況で当校が課題としているのは、大きく二点である。一点目は、職員や児童の端末操作(アプリの操作を含む)のスキルを上げることである。そのために、次の取組を行っている。

①3年生以上の児童には、空き時間や家庭学習等を利用して文字入力練習をさせた。

②ICT推進リーダー等、得意な職員が講師役になり、少人数でのミニ研修会を短い時間(20～30分程度)で行った。

③毎朝、必ずGoogle Classroomを開いて内容を読むことにし、連絡事項は、ストリームに書き込んで全員に周知することにした。

④Googleフォームの使い方を研修し、体力テストの記録集計や保護者アンケートの集約等は、児童や保護者から入力してもらうことにした。

二点目は、教育活動に効果的に活用しながら、情報の共有と蓄積をどうしたらよいかである。そのために次のような取組を行っている。

①ICT推進リーダーを中心に、どの学習場面でどの機能を使うと主体的・対話的で深い学びに結び付くのか、活用場面を考えて教え合った。

②学校の共有フォルダを設定し、教科ごと学年ごとに分類して、役立つテンプレートや効果的な活用例のデータを保存することにした。それを学校共有の財産として蓄積することにした。

③職員の校内授業研修では、ICTの活用を意識して授業を構成するようにしている。

GIGAスクール構想は、まだ開始されたばかりである。分からないことも多いが、一歩ずつ社会に順応していける子どもたちを育てられるよう、教職員の力を結集して歩みを進めたい。

郡市教頭会ネットワーク



予測困難な局面を乗り越えるため つながりある教頭会を目指して

柏崎市刈羽郡小中学校教頭会
会長 岩田 正行
(柏崎市立柏崎小学校)

柏崎市刈羽郡小中学校教頭会は、小学校 21 校、中学校 12 校、中等教育学校 1 校の計 34 人の教頭で構成されています。

大それた題名を付けましたが、感染症、大雨による自然災害等、非違行為等の人災等、いつ何が起こるか、未経験の局面でどのように対応するか、アンテナを高くしている状態が続いています。

当教頭会は、年 9 回の会議を設定し、総会、研修、協議等を年間に位置付け、推進しています。

昨年度は、感染症の影響を受け、総会の議案を紙面決議としてスタート、初めて顔を合わせたのは 9 月末。ほとんどがリモート会議という形で、つながりの薄さが大きな課題となりました。その反省を生かし、今年度は、大きな会場を予約して、広々と年度初めの総会を設けました。まずは、「顔をつなぐ」を大切にしました。あわせて県教頭会研究大会上越地区ブロック別研究大会の主管として、複数の会議を設定して、事あるごとに顔を合わせて話し合いを進めています。

その時の情報交換が業務を進める上で、貴重な機会となっています。例えば、勤務終了後の留守番電話の設定を夏季休業中の設定に変更するにはどうするか、7 月から開始された日直業務民間委託の状況と教職員の様子など、なかなか電話やメール等で聞きにくい内容を遠慮なく会の後段で時間をとり、小・中学校に分かれて、円陣を組み、立ち話の雰囲気ですべてを毎回変えて行っています。

また、中学校区を柱にブロック別に「教育目標・理念に関する課題」をテーマに研修を行っています。残念ながら、懇親会は昨年からできていませんが、横のつながりを強めるため、電話や学校間ネットワークの回覧板等を活用して、いつでも気軽に連絡や相談ができる関係をつくっています。つながりを大切に教頭会を引き続き、運営して参ります。



教頭会の目指すもの

阿賀野市小中学校教頭会
副会長 石塚 繁
(阿賀野市立堀越小学校)

阿賀野市小中学校教頭会は、小学校 8 校、中学校 4 校で 12 名の会員で構成されています。阿賀野市を愛し、学校を愛し、そして、子どもたちを愛している会員は、日々の業務に奮闘しています。また、教頭としての資質・能力の向上を図るため、定期的に教頭会を開き、研修を積み重ねています。

1 視野を広げる各種研修

(1) 教育長、管理指導主事によるご講話

張り詰めた空気の中、ご講話をいただく中で、自己の教頭としての職務を振り返る絶好の機会となっています。翌日から気持ちを改め、業務に取り組んでいます。

(2) 事務職員との合同研修

諸表簿管理、財務管理等の事務管理に関しては、事務職員との連携は必要不可欠です。情報共有し他校の状況を知る上でも、自校の業務改善のため有効に機能しています。

(3) 情報交換会

悩み事があると、電話連絡等で他校の状況や取組について情報を得たり相談できる体制にあります。教頭会として情報を共有する意味でも、定期的な情報交換会は有意義な時間となっています。

(4) 阿賀野市を知る地域探訪

児童生徒にふるさとのよさを知ってもらうためには、まず職員がそのよさを知らなければなりません。教頭会として地域へ直接足を運び、地域の方のお話から、阿賀野市のよさを感じ取っています。残念なことに今年度は実施できない状況です。

2 教頭会として

阿賀野市の教育の基本理念「ふるさとを愛し、未来を切り拓いていく人を育てる教育」の実現を目指し、教頭会としてできることを実践していきます。今後も情報を共有しながら、日々の業務に邁進していきたいと思っています。



絆をつむぐ

糸魚川市立下早川小学校

八木 千佳誉

朝の窓開けが毎日の日課。木々の香りと鳥のさえずり、緑広がる早川郷の景色に心が癒やされる。

経験したことのないコロナ禍において、教頭としての責務を痛感した。市教委や保健所をはじめ、児童の家庭環境に応じた、保育園や中学校との連携。また、未知のウイルスに対する不安は、人々の差別心を生み出すきっかけともなる。保護者や地域への正しい情報の発信も、欠かすことはできない。

感染症が広がる不安の中、地域の方々が、自宅で育てた花のプランターや全校分の手作りマスクを学校に届けてくださった。地域からの温かな支援に、子どもたちだけでなく、職員も励まされた。

少子高齢化が急速に進む地域にあり、学校への期待は大きい。人と人との絆を深めていくために、自身ができることをしっかりと果たし、期待に応えられるよう日々精進していきたい。



教頭になって

新発田市立豊浦中学校

山本 亘

今年度からお世話になります。皆様からの御指導・御鞭撻のほどよろしく願いいたします。

教頭になってから5ヶ月が過ぎようとしています。教頭という重責を感じながら職務にあたっている日々です。また、今まで仕えていた教頭先生方は、常に冷静にスマートに職務をこなしているように見えていました。実際、自分が教頭になってみるとプレッシャーや激務の中でスマートに日々をこなすことができず、改めて諸先輩方の偉大さを感じています。少しでもそのような姿に近づけるよう努めてまいります。

最後に、最近読んだ本に『管理職失格（日本経済新聞出版）』があります。その中に「管理職はプレイングマネージャーであれ」という章があり、共感する部分が多かったです。理想のプレイングマネージャーを目指していきます。



感謝の日々に思うこと

南魚沼市立赤石小学校

富士野 幸子

緊張の中赴任した4月、次々に来る文書の処理、数々の報告、ただひたすら業務をこなす日々でした。

しかし、少しずつ周りを見る余裕ができた今、たくさんの優しさと支えに気付くことができました。

さりげなく助けてくれる教職員。素直で明るい子どもたち。協力的な保護者や地域の方。夏休みには、特産の八色スイカがいくつも学校に届いたことに驚き、温かな気持ちになりました。困った時、親身に教えてくださる郡市教頭会の先輩方。そして「失敗を恐れずやってみなさい」と背中を押し、管理職としての姿を自らの行動で教えてくださる校長先生。その優しさに甘えることなく自己研鑽に努めなければと、今その気持ちを新たにしています。

まずは、教職員と子どもたちの声に耳を傾け、安心して過ごせる環境作りを目指して笑顔で頑張ります。これからもご指導よろしく願いいたします。



自ずと動き出すチームをつくるリーダーに！

佐渡市立前浜小学校

北川 禎

最近読んだ本に「自ずと動き出すチームをつくるために必要なこと」が書かれてあった。

- ・「誰よりも一番汗をかくこと」を大切にしたい
- ・「任せる・信じる」を重視したチームマネジメント
- ・「士気を高める」コーチング、「潰さない」育成
- ・「自己成長を追い求める」マインドサイクル

私の新任教頭（管理職）としての願いは、「よりよいチーム（教職員集団）をつくること」である。そのために、「子どもたちが生き生きと活動し、教職員がよりよい職場環境の中で子どもたちと向き合えるようにリーダーシップを発揮したい」と考えている。

校長の指導の下、上記のような視点を大切にしながら「自ずと動き出すチーム」をつくれるように精一杯職務に励んでいきたい。

皆様からのご指導をよろしく願いいたします。

随 想



「新潟県立文書館」 での経験

県立燕中等教育学校

妹尾 雅 巳

「新潟県立文書館」という施設があるのをご存じだろうか。読み方は「にいがたけんりつぶんしょかん」と読みます。初めて耳にしたという人やどこにあるのかも知らない人もいるのではないのでしょうか。恥ずかしながら私も、数年前に勤めさせていただき機会を得るまではその存在も知らず、場所さえもわかりませんでした。このような施設は、国立公文書館をはじめ、全国の都道府県や自治体に設置されています。新潟県立文書館での業務は、県内各地に伝えられてきた古文書、公文書等の貴重な歴史資料を、収集・保存、閲覧利用ができるよう所蔵・管理し、普及活動に努めることでした。県外出身の私は、新潟県内の歴史について学ぶ機会を得るとともに、調査活動の業務に携わり多くの経験をしました。例えば、所蔵されている古文書の中には、歴史の教科書で見慣れている地券や福沢諭吉、犬養毅などの著名人の直筆や、県内各地から集まった古文書や古地図があり、それらに触れる機会を得ることや、市町村に赴いた調査では、県内の廻船問屋が、江戸時代に奄美大島などの砂糖の取引がおこなわれていたことなど、教科書には載らない歴史に触れることができました。これらの業務のおかげで、あらためてこれらの歴史的資料が、現在にいたる新潟のすがたを形作ってきたのだと知る機会になりました。しかし年々古文書などを読める人（私は読めません）が激減し、廃棄されてしまうケースが多くなっています。そうなるとその地域に残された歴史の手掛かりが失われてしまうことになり残念に思います。文書館を離れた今も、大きな蔵を見かけると「古文書や歴史的資料が眠っているかもしれない。」と思います。



顔の見える 胎内市教頭会

胎内市立中条小学校

中野 忠 弘

小・中学校合わせて9カ校で構成している胎内市教頭会は、月に1回程度定期的に教頭会を開催している。教育長や指導主事、校長会長から指導をいただく研修会や胎内市教頭会としての課題解決に向けた研修会等を企画し研修するだけでなく、毎回、情報交換の場を設けている。

情報交換の場では、各々が、各校でどのような対応をしているのか聞いてみたいことを話題に出し、意見交換をしている。各校の運動会や体育祭、学校行事の持ち方、提出文書の作成や留意点等、さまざまなことについて情報収集することができ、貴重な機会となっている。

胎内市では、「おまかせ校務」という校務支援ソフトを用いている。職員の打合せ回数に限られる中、自校の職員に周知したいことや指導することを資料も添付して送付するだけでなく、市教育委員会や市内の小中学校職員ともオンライン上でつながり、情報交換等することもできる。

今年度、当校では、7月中旬に学校管理訪問を受けた。教頭として初めての管理訪問であったが、6月に管理訪問を終えた他校の教頭より、管理訪問後に作成した報告書を「おまかせ校務」で共有してもらったことで、当日は心に余裕をもって臨むことができた。

胎内市教頭会は、人数が9名と少ない分、その人の人となり分かり、顔の見える教頭会となっている。困った時は、互いに聞き合える横のつながりを今後も大切にしていきたい。

新潟県小中学校教頭会
[事務局]
県教頭会ホームページ
全国公立教頭会ホームページ

〒950-0911 新潟市中央区笹口2丁目7-17 和田ビル2F
E-mail n-kyotoh@crest.ocn.ne.jp TEL (025) 244-8225
https://www.niigata-kyotokai.jp/ FAX (025) 244-5060
http://www.kyotokai.jp/